

# 曾於文藝

「題字」

末吉文化協会会員

瀬戸口 淳民 氏

## 俳句

### 末吉俳句会

連翹の黄に睡みたるうたびとら  
児島 泰代

鶯や庭ほうきの手暫し止め  
本浦 玲子

輝きを空に放ちて辛夷咲く  
宮路 生大子

### 千草俳句会

さえづりや湖畔の空の晴れて来し  
川辺 良彩

朝早く鉢並べ終え苗木市  
児玉 タエ子

境内の風の明るき樟若葉  
今村 久子

## 大隅俳句会

花びらの風に描けり点と線  
岩重 みどり

もう一歩いいことありそう花の下  
穎娃 晴美

入学や背幅に余るランドセル  
川崎 綾子

## 短歌

### 末吉短歌会

累々と過ぎゆく日々の虚に滲む  
紅梅濡らす早春の雨  
森岡 ちどり

この冬もいのち保ちて羽虫らの  
飛ぶを見てをり元気を出さな  
田之上 絹子

壁掛の写真の子犬に見つめられ  
けふもファイトとベッドに目覚む  
草野 ミツ子

## 大隅短歌会

生きる事生ききる事を意識して  
シニアの日々を楽しむており  
川田 サダ子

寒ゆるみ春めく朝をうす紅の  
梅咲き初めり今日は立春  
吉崎 フサ子

子孫を残すすべを知りしか  
雑草は犬の背中に種を託せり  
加塩 秀子

## 財部短歌会

せり市の高値に喜ぶ高齢者  
安値に嘆く生産農家  
児玉 次雄

汚れなき天使のやうな二才児の  
きらめく眸にこころ癒さる  
杉村 リカ

退職の時を思はず山ざくら  
だんまりて咲きだんまりて散る  
祝迫 道雄

錦江湾かぎりなき波きらきらと  
桜島のおもひを渚に寄する  
井上 澄子

## 薩摩狂句

にがごい会末吉支部

流行い服く 惜ねち着ちじ  
古川 一幹

老けた女房 惜ねち着ちじ  
古川 一幹

ぬ顔い 惜たれ化粧品を  
田代 勝泉

塗いたくつ 田代 勝泉

珍品ぬ 惜ねち食わじ  
浜田 一好

腐らけつ 浜田 一好

いやし女房 惜ねち食ろちや  
桐野 奈世

肥えむくつ 桐野 奈世

大隅薩摩狂句会

若け夫婦が 新け家い住んで  
津留 群志

新車しえ乗つ 津留 群志

詐欺ん騒動 忘るい頃れな  
神宮司 素水

新け手口 神宮司 素水

一日中で 指で遊すじよい  
太良木 五徳

新けスマホ 太良木 五徳

語や良が 仕事の諸道具か  
新屋 涼子

新けまんま 新屋 涼子